

## トマス・ヘファナン教授の定年退職によせて

新年度が始まり、文学科日本語日本文学専攻・英語英文学専攻は希望に満ちた新入生を迎え、学内に新鮮な風が吹き込まれている感じがします。しかし、文学科では平成17年3月末日をもってヘファナン教授が定年退職され、改組以来始めて日本人と同等のポジションでご活躍なさった先生の存在の大きさを改めて感じている今日この頃です。本学人文学会は、論集『人文』29号を本学の研究・教育・国際化などさまざまな面で多大な貢献をなさったヘファナン教授の記念号として刊行することになりました。

ヘファナン教授は、ボストン大学卒業後、マンチェスター大学大学院修士課程を修了され、上智大学で日本通として世界的に有名なピーター・ミルウォード先生のもとで博士号を取得されています。更に、アメリカ詩人協会からゴードン・バーバー記念賞を授与され本格的な詩人として創作活動を行われ、マンチェスター大学、ハートフォード大学、ノースカロライナ州立大学などで専任講師として英米文学の分野での教育・研究にも専念されました。本学には平成6年10月に、当時の本学改組の主要理念であった国際化路線の最適任者として、前任大学である鹿児島大学法文学部大学院客員教授としての契約期間を6ヶ月残したままで着任されました。本学での在職期間は、10年6ヶ月と定年退職の先生としては短い期間かもしれませんが、その間、英語の母語話者として本学の学生及び教職員に国際化の波を自然にもたらされた点では、非常にユニークな貢献をされたと思われます。具体的な担当科目は、英米文学演習、卒業研究、英米文学史、オーラルコミュニケーション、アメリカ事情などで、常にユーモアと情熱を持って学生の指導に当たられ、学生もキャンパス内での異文化を楽しんでいたようです。

なお、本学にご着任後も、ますます旺盛な文学研究及び創作活動への情熱をお持ちで、数々の国際学会で研究発表をされるとともに、夏季休暇期間中はノースカロライナ・コミュニティカレッジで芸術詩人として詩作を集中講義で教授され、毎日国際英語俳句賞の受賞歴はほぼ10回にも及んでおられます。

以上の様な顕著なご功績により、ご退職時に鹿児島県知事より長年の鹿児島県高等教育功労者として感謝状が授与されました。

なお、ヘファナン教授は退職後ビザの関係で一時期は米国帰国を余儀なくされる状況でおられました。幸いにも日本永住権を取得されました。文学科といたしましては、ご退職後も長年にわたり本学へのお力添えをお願いいたしたいと思っておりました矢先、ノースカロライナ州のセントアンドルー・プレスビテリアン・カレッジの客員教授として招聘され、この8月から再出発をされることになりました。米国に帰国されてからもヘファナン教授のなお一層のご健康とご活躍を祈念いたします。

平成17年5月

鹿児島県立短期大学文学科長 久木田 美枝子